

## <熊本支部例会事前抄録>

日時：2021年10月26日(火)19:30～

会場：添島歯科クリニック研修室

-ポスター発表-

### 前歯部審美領域のインプラント治療において

#### セメント固定からスクリュー固定に変更した一症例

八田知之 はった歯科小児歯科クリニック 〒860-0079 熊本市西区上熊本2丁目18-1

#### ■ 抄録

症例概要：患者は63歳女性。左側上顎中切歯、右側上顎側切歯を支台歯としたブリッジの動揺を主訴に2020年3月来院。

治療方針：治療計画として右側上顎中切歯部にインプラントを埋入し、隣在歯を単独修復を行うことを患者に説明し同意を得た。

治療経過：同年6月にインプラント(Bone Lever Tapered Implant 3.3×10mm Straumann)を25Ncmのトルクで埋入。6ヶ月の免荷期間後、暫間上部構造をスクリューにて固定した。同部の印象採得を行い、チタンアバットメントを締結、PFZを仮着セメントにて装着した。しかし、インプラント周囲歯肉のボリューム不足を認めたため、上部構造の再製作を行いダイレクト構造のスクリュー固定式で最終上部構造の装着を行った。

考察及び結論：今回、ダイレクト構造のスクリュー固定式に変更したことにより審美性は改善したと考えられる。インプラント上部構造製作において、アバットメントの材料や固定様式は様々あり、適応症の拡大に寄与するが、治療計画の複雑化や治療結果に影響する一因となることが考えられる。